

輸血安全教育における臨床検査技師の活動意義

— 聖隷浜松病院輸血チーム活動報告 —

◎中島 裕美¹⁾、鈴木 健太¹⁾、佐野 沙也加¹⁾、石原 冬馬¹⁾、HABIBZADEH VANEGHI¹⁾、宮崎 恵子¹⁾、直田 健太郎¹⁾
聖隷浜松病院¹⁾

【はじめに】安全で適正な輸血医療実践には輸血医療に携わる多職種連携が重要であり、日本輸血・細胞治療学会より「輸血チーム医療に関する指針」も提示され、多職種による輸血チーム医療による活動が推進されている。当院は、静岡県有数の血液製剤使用量の施設であるが、輸血に関するインシデント報告が後を絶たない。そこで、臨床検査技師が中心となり、医師・看護師と協同し輸血チームを結成し全職員対象に輸血安全教育を実施している。過去5年間に実施した教育活動と共に輸血チーム医療における当院臨床検査技師の役割を報告する。【取り組み】臨床検査技師が主導し当院発生の輸血インシデント報告の解析と院内監査を実施し問題点の把握と教育活動の立案を行なった。インシデント報告では血液製剤の破損や放置、ルート選択間違い等が繰り返し発生し血液製剤の取扱方法の教育を反復して行なう必要性が示唆されたため、毎年血液製剤取り扱い方法の講義と実際の管理不備製剤見本の展示と解説を行なっている。また、輸血実施マニュアルはあるが、各病棟で伝達教育のみで遵守されておらず、院内監査ではルート

接続時血液バッグを持ち上げる動作も見られた。そこで、輸血投与手順マニュアルの動画上映した。動画は輸血チームでシナリオ作成から編集までを行い、現在は院内イントラネットに配信し新入看護師の輸血教育にも活用している。医師の知識不足は緊急輸血時輸血過誤となる危険性があるため初期研修医に臨床検査技師による血液型検査や交差試験の実技講習を実施、また、初期研修医は学んだ事項を職員へ講義している。これらの輸血安全教育は2023年度に院内職員のみでなく血液センター職員にも開放し、輸血医療に携わる多職種すべての相互理解に貢献した。【まとめ】輸血医療は多職種が携わっているが、最も輸血医療全般の専門性を有する職種は臨床検査技師であり、輸血チーム医療活動の中核を担う事が可能である。また、輸血医療の困りごとは輸血管理部門に寄せられるため、臨床検査技師が問題意識を持つことと、多職種を巻き込みながら問題解決することが重要と考える。今後も臨床検査技師が積極的に活動し輸血安全教育に貢献していきたい。
聖隷浜松病院臨床検査部 053-474-2222(内線 2101)